令和６年度研修　評価

<table>
<tr><td>研修名</td><td colspan="5">在宅看護（入退院支援）研修会　公開講座</td></tr>
<tr><td>領　域</td><td>訪問看護</td><td>会場</td><td>新潟県看護研修センター</td><td>受講料</td><td>会　員：2,200 円
非会員：6,600 円</td></tr>
<tr><td>対　象</td><td colspan="5">募集数　応募数　参加数　会員数　非会員数
第１回 20 人　5 人　5 人　3 人　2 人
第２回 20 人　12 人　12 人　12 人　0 人
第３回 40 人　26 人　26 人　23 人　3 人
第４回 40 人　41 人　41 人　31 人　10 人</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="5">令和６年５月 23 日（木曜日）～11 月９日（土）　9：30～15：30 または 16：30</td></tr>
<tr><td>ねらい（目標）</td><td colspan="5">1.　地域連携に必要な知識と支援システムの実際を学び実践に活かすことができる
2.　療養者及び家族が安心して入退院できる支援方法を学び実践に活かすことができる</td></tr>
<tr><td>講　師</td><td colspan="5">1 井上　智代　新潟大学大学院保健学研究科　准教授
1 中野　美佳　訪問看護ステーションふくふく　管理者　緩和ケア認定看護師
2 白倉　透規　医療法人立川メディカルセンター立川綜合病院　入退院支援部門看護主任　慢性心不全看護認定看護師
2 岡田　智子　医療法人恵生会南浜病院　保健師・看護師
3 中野　美佳　訪問看護ステーションふくふく　管理者　緩和ケア認定看護師
3 阿部　行宏　山の下クリニック　院長
4 宇都宮宏子　在宅ケア移行支援研究所　宇都宮宏子オフィス</td></tr>
<tr><td>内容・方法</td><td colspan="5">〇講義
１日５または６時間　講義、グループワーク、演習</td></tr>
<tr><td>結　果

評価基準：
①参加数が募集数の70%以上
②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上
③自己課題の達成度又は研修目標（知識技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上
④アンケートの意見</td><td colspan="5">〇参加者割合
第１回 25.0%　第２回 60.0%　第３回 65.0%　第４回 102.5%
【第４回のみ達成・未達成】
〇アンケート結果
・理解度　98%　【達成・未達成】
・自己課題の達成度または研修目標（知識・技術）の習得度
96.4%　【達成・未達成】
〇受講者の意見
・実践に活かせる講義であり、日々の業務の再確認ができた。
・退院に向けた具体的な動きがわかった。
・事例があってわかりやすかった。
・日々のジレンマがあってもいいんだとほっとした。
・連携がうまくいかないこと、違う立場での悩みも聞けてよかった。
・多職種間での意見交換ができてよかった。多職種連携の大切さがわかった。
・介護分野の加算や制度について、自分自身の知識が不足していると感じた。
・外来の継続看護、入退院支援に取り組む課題がもっと明確になった。
・サービス支援や、制度など情報が多く難しかった。</td></tr>
</table>

	・外来看護師目線の話が少なかった。 ・自施設で実際に実践できるか不安が残る。 ・公開講座のみの参加の場合、全日程で出ている課題に沿うグループワークに入ることで戸惑った。
評　価・総　括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した・達成しなかった】 ・講義によって受講者数にばらつきが目立つが、受講者の理解度や達成度・習得度はともに95%以上を示しており、アンケートからも実践に活かせる、わかりやすかったという意見が多数あった。また、参加者同士の意見交換や講義から、悩みやジレンマを分かち合うことができ、多職種連携についても理解を深めることができており目標は達成できた。 ○総括 地域と病院を結びつけるカリキュラムになっており、様々な立場で活躍されている講師による講義は、看護職の視野を広げることができる。2040年問題に対応していかなければならない看護職として、必要な知識や実践であり今後も継続していく必要があると考える。
課　題	入退院支援は、病院、施設、在宅をつなぐ重要な支援であるため、今後も看護職が広い視野をもつためにも必要な研修である。しかし、参加者の伸び悩みが懸念される。日頃入退院支援に関わる職員や訪問看護ステーションの職員の参加が主であるが、これからは看護師１人１人が入退院支援の観点を一層求められる時代になっていく。それらを踏まえ病棟看護師、外来看護師にも積極的に参加してもらえるよう、取り組みを検討していく。
担当者	訪問看護推進委員会